



むすぶ

私、今、小説を書いているんですが、いつか自分の書いた作品が、誰かのお薦めの本となつて、ビブリオバトルで紹介してもらおうのが夢なんです。

秋田西高等学校3年
西村水澤さん

ビブリオバトル in 秋田大学

将来、教員や司書を目指す大学生たちが挑戦！



1月22日（金）、秋田大学教育文化学部の「児童サービス論」において、ビブリオバトルを実施しました。この講義は、司書資格を取得する司書課程の中に位置付けられており、将来、図書館司書や教員を目指す学生が多く受講しています。

今回は、テーマを「小学校低学年向けの本」とし、プレゼンの時間を3分とするミニビブリオバトルとして実施しました。

まず、くじ引きで5つのグループに分かれて予選を行い、その後、各グループのチャンプ本による決勝戦を行いました。学生たちは、本の内容を紹介するだけでなく、幼い頃の思い出や現在の心境を交えながら、本の魅力を伝えていました。チャンプ本には、片倉大吾さんが紹介した『ぼくのかえりみち』（著・ひがしちから BL出版）が輝きました。



小グループでの予選(左)と代表による決勝(右)の様子

<学生の感想>

- ・予選もそうだったが、決勝は本当にどれも読んでみたくなる本だった。聞き手を惹き付けるような発表の仕方など、参考になる点が多く、また機会があったらぜひ挑戦してみたい。
- ・お薦めの本を紹介し合うことがなかなかないのでいい機会だと思った。
- ・大人になってからも、絵本を読む価値は十分あると思いました。
- ・堅苦しく静かなイメージがあったビブリオバトルでしたが、楽しく気軽にできるものなんだと考えが改められました。
- ・「私は小さい頃何を読んだかな」と思い出しながら選んだので、童心に返ったような気がして楽しかったです。
- ・先生から、「本を子どもに手渡す人になってほしい」という話があったので、自分もそういう教師を目指したいと思う。
- ・「本をとおして自分を語る」、そういう楽しさを子どもたちに教えたかったので、ビブリオバトルを授業に組み込んでいきたい。



県と市町村が協働



読書活動推進に関する意見交換会

県は、現在の「秋田県読書活動推進基本計画」が3月末をもって終了するため、2次計画策定に向けて作業を進めています。そこで、読書をより県民の皆さんの生活の場に根付いたものとしていくため、住民の読書意識の向上に取り組む市町村との協働が必要であると考え、1月15日（金）、各市町村教育委員会の担当者と意見交換会を行いました。

まず、これまでの読書推進の成果と課題、県民の読書意識や読書時間、県内の読書環境、「ブックリーダー」創設等について共通理解しました。

その後、各市町村から、「子ども読書推進計画の策定」「木製ブックスタンドキットの提供」「新館



今回は22の市町村教育委員会から、29名が出席しました

図書館の運営状況」「本のお楽しみ袋や読書記録帳の活用」「マイブック事業と選書ツアー」など、特徴的な取組が紹介されました。また、学校図書館司書の配置やブックスタート事業開始、図書資料の購入に関わる予算獲得の難しさ、図書館サービスの広域的な展開、保育所や学校との連携、子どものいる場所への図書の配置なども話題となりました。



おはなしキャラバン in 井川町

産業祭・町民文化祭イベント



井川町のボランティア「こはぜ」の皆さんは、約30年前から、歌とゲーム、紙芝居、人形劇、影絵、絵本の読み聞かせなどをプログラムし、「おはなしキャラバン」を開催しています。

今年度は、秋田県読書フェスタの期間となる10月24日(土)、井川町産業祭・町民文化祭の中で、公民館ホールを会場に開催しました。文化祭を見に来た人がちょっとのぞいても楽しめるように、前もって演目の順番を決めず、訪れた人たちの顔ぶれを見て出し物を演じたところ、幼児から年配者までが満足できるイベントとなりました。

『きよしのズンドコ節』の歌に合わせてみんなで

体を動かすことからスタートし、『どろぼうがっこう』『アンパンマン』の紙芝居、『アブラハムの子』『長生き音頭』等の歌、『おじさんのかさ』等の読み聞かせなどが披露されました。圧巻だったのは、



おはなしの世界を楽しむ参加者たち

手作りの影絵『火の鳥』。切り絵にカラーセロファンを貼り付け、幻想的な世界を創り出し、訪れた人々をおはなしに引き込みました。



素敵な学校図書館 見つけた~!!



呼び名は「図書ラウンジ」

横手市立雄物川小学校



素敵な展示・掲示と吹き抜けの開放的な図書館はまさにラウンジ

子どもたちが貸出カウンター前に列を成すというのは、玄関から続くオープンスペースと光が降り注ぐ設計のお陰だけではありません。下学年は年間100冊、上学年は8,000ページを読書目標に掲げて、全校で取り組んでいます。12月末現在、1,150冊読んでいる児童と53,604ページを読んでいる児童が、それぞれのトップでした。

中学生の心をキャッチするテーマ展示

横手市立横手北中学校



左から 映画化・TVドラマ化された本、比べて読みたい本、先生の愛読書

「何を読めばいいかわからない」という中学生の声に答えるかのように、学校司書が様々なテーマで選書して、展示コーナーを設置しています。自分の生き方について深く考えるヒントとなるもの、グローバルな視点を養うもの、ちょっと息抜きしたいときに読みたいものなどが、心引かれる紹介文やポップとともに置かれています。

学校図書館に子どもたちを誘う

マスコットキャラクターが活躍中!!

生徒たちに図書館や読書に親しみをもってもらうために、マスコットキャラクターを作っている学校があります。潟上市立天王中学校のマスコット「としよこさん」は、校内のあちこちの展示コーナーで、本を紹介したり図書館に行こうと誘ったりしています。

秋田中央高等学校の「びおり」は、本が好き過ぎたひよこ、という設定です。図書館だよりに登場するほか、文化祭では指人形となって販売され、人気を博しました。

どちらも、癒やし系のほのぼのとした感じのキャラクターで、生徒たちに好評です。



美術部員が紙粘土で制作した「としよこさん」



4年前、男子図書委員がデザインしたという「びおり」とその指人形

秋田県教育庁生涯学習課
生涯学習・読書推進班



URL <http://www.pref.akita.lg.jp/syogaku/>